

平成15年度 畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成15年度 畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成15年12月8日(月)～9日(火)、池之端文化センターにおいて開催された。

本年度供試された畑作関係除草剤は作用性試験7剤、適用性試験27剤で、生育調節剤は作用性試験

5剤、適用性試験5剤であった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成15年度 畑作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

薬剤名	作物名	判定	使 用 基 準						継続の内容	
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		使用上の注意
1. AH-01 液剤 (S)-2-アミノ-4- [ヒド'ロキシ(メチル) オスフィニル]ブタン 酸ナトリウム塩 10.5%	ホップ	継								・効果、葉害の 再確認
2. AK-01 液剤 グ'リホサートイソア'ロ ピ'ルアミン塩 41%	大豆	継								・効果、葉害の 再確認
	さとう きび (圃場 周縁)	継								・効果、葉害の 再確認
3. ANK-553 細粒剤 ベン'ディメタリン 2%	ばれい しょ	実・ 継	一年生雑 草全般(キ ク科、ユリ 科を除く)	土壌	植付後 雑草発生前	4～6kg	全土壌 (砂土を 除く)		1) 北海道を除く 2) 碎土、覆土、整地 はていねいに行い、 均一に散布する。	・効果、葉害の 年次変動の確 認
	陸稲	実・ 継	一年生雑 草全般(キ ク科、ユリ 科を除く)	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	4～6kg	全土壌 (砂土を 除く)		1) 碎土、覆土、整地 はていねいに行い、 均一に散布する。	・効果、葉害の 年次変動の確 認

注) _____ は拡大された部分、_____ は拡大部分が含まれることを示す
薬剤名の _____ は新たに使用基準が作成された薬剤である

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
4. AVH-001 乳剤 エトフゼート 10% フェンメトイファム 8.2% デスメトイファム 6.4%	てんさい (直播)	実	一年生雑 草全般	茎葉	てんさい2 葉期以降 雑草発生揃	350~450 mL 〈水量 60~80L〉	全土壌		1) 1/Lには、低薬量で 効果の劣る場合が ある。 2) 葉縁の変形、壊死 等が発生する場合 がある。	
5. BAG-031 マイクロバクセル剤 ジメナミド-P 200g/L ペンデイメタリン 200g/L	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	継								・ 効果、薬害の 再確認
6. BAG-033 乳剤 ジメナミド 250g/L ペンデイメタリン 250g/L	とうも ろこし 飼料用 とうも ろこし	継								・ 効果、薬害の 再確認
7. DPX-16 顆粒水和剤 チフェンスメフロメチル 75%	こんに ゃく	実・ 継	一年生広 葉雑草	茎葉	萌芽前 広葉雑草生 育初期(4 葉期まで)	5~10g 〈水量 100L〉	全土壌 (砂土を 除く)			・ 処理時期の拡 大 ・ こんにゃく出 芽期以降の処 理における薬 害について
8. Hoe-866 液剤 グリホサート 18.5%	大豆	実・ 継	一年生雑 草全般	茎葉	播種前10~ 14日	300~500 mL 〈水量100 ~150L〉	全土壌		1) 北海道を除く 2) 雑草の生育量に応 じて薬量を増減す る。 3) 播種後土壌処理剤 との体系処理をす る。	
					播種後出芽 前 雑草生 育期(草丈 30cm以下)				1) 北海道、九州を除 く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるの で注意する。	・ 低薬量での効 果および薬害 の確認 ・ 地域拡大
				茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)				1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。	・ 生育期畦間処 理での年次変 動の確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域	使用上の注意	
8. Hoe-866 液剤 つづき	菜豆	継								・効果、薬害の 再確認
	さとう きび (畦畔)	実・ 継	従来通り 雑草全般	茎葉	雑草生育期 (草丈30cm 以下)	500～ 1000mL <水量 100L>	全土壌		1) 作物に飛散しない ように散布する。	・効果の確認
9. Hoe-866液 剤+リニロン 水和剤 グルホシネート 18.5% リニロン 50%	ばれい しょ	実	一年生雑 草全般	茎葉 (同時 処理)	萌芽前	Hoe-866: 100mL+リ ニロン:100g <水量 100L>	全土壌		1) 北海道のみ	
10. HOK-226 水和剤 インダノファン 12.5% リニロン 12.5%	小豆	継								・効果、薬害の 再確認
11. KUH-901 乳剤 ベンチカル-P 50% リニロン 7.5% ベンディメタリン5%	大豆	実	一年生雑 草全般	土壌	播種後出芽 前 雑草発 生前	500～800 mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を 除く)		1) 砂の多い土壌では、 使用量を少なめに する。 2) 土壌が極端に乾燥 している場合は効 果が劣る。	
	大豆 (移植)	実・ 継	一年生雑 草全般	土壌	定植前 雑草発生前	500～700 mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を 除く)		1) 植穴に表層土壌が 入らないように定 植する。	・効果、薬害の 年次変動の確認
	落花生	実・ 継	従来通り 一年生雑 草全般	土壌	播種後 雑草発生前	500～700 mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を 除く)			・マルチ前処理 での効果、薬 害の再確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌 適用地域	使用上の注意	
12. KUH-901 細粒剤 ベンチカ-ブ 8% リニロン 1.2% ベンディメタリン 0.8%	大豆	実	従来通り 一年生雑草全般	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4~5kg	全土壌 (砂土を除く)	1) 北海道を除く 2) 碎土、覆土、整地はていねいに行い、均一に散布する。	
13. MON-96A 液剤 グリホサートアモンコ ム塩 41%	大豆 (グリホサート耐性)	実	従来通り 一年生雑草全般	茎葉	大豆2~5葉期 (雑草生育期)	250mL <水量25~100L>	全土壌	1) 北海道を除く 2) 雑草量が多いときや雑草の生育が早いときは、早めに処理をする。 3) 少水量散布 (25~50L) の場合は専用ノズルを使用する。	
14. MON-96A 液剤 グリホサートアモンコ ム塩 41%	飼料用とうもろこし	実・継	一年生雑草全般	茎葉	播種後出芽前 雑草生育期	250~500 mL <水量25~50L>	全土壌	1) 九州のみ	・効果、葉害の確認
	そば	継							・効果、葉害の再確認
15. NH-007 フロアフル剤 ピラフルフェンエチル 0.16% グリホサートイソプロピルアミン塩 30%	大豆	継							・効果、葉害の再確認
16. NM-536 粒剤 ジメナミド 1.6% リニロン 1.4%	大豆	実・継	一年生雑草全般	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4~6kg	全土壌 (砂土を除く)	1) 北海道を除く 2) 碎土、覆土、整地はていねいに行い、均一に散布する。	・効果、葉害の確認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
17. S-604乳剤 クレトジム 23%	大豆	実	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	35～50mL ＜水量 100L＞	全土壌		1) イネ科雑草優占圃場 で使用使用する。 2) 体系処理；広葉雑草 対象の既登録除草剤を使用する。	
			スズメノカタビラ			50～75mL ＜水量 100L＞				
	小豆	実	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	35～50mL ＜水量 100L＞	全土壌		1) イネ科雑草優占圃場 で使用使用する。 2) 体系処理；広葉雑草 対象の既登録除草剤を使用する。	
			スズメノカタビラ			50～75mL ＜水量 100L＞				
	菜豆	実	一年生イネ科雑草	茎葉	イネ科雑草 3～5葉期	35～50mL ＜水量 100L＞	全土壌		2) イネ科雑草優占圃場 で使用使用する。 3) 体系処理；広葉雑草 対象の既登録除草剤を使用する。	
			スズメノカタビラ			50～75mL ＜水量 100L＞				
18. SB-508乳剤+ANK-553乳剤 ジメナミド 76% ベンディメタリン 30%	とうもろこし 飼料用 とうもろこし	実	一年生雑草全般	土壌 (同時処理)	播種後出芽前 雑草発生前	SB-508: 100mL+ ANK-553: 200mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を除く)		1) 北海道のみ 2) 土壌が乾燥しているときは、刈に効果が劣る場合がある。	
19. SYJ-103 7077乳剤 メトリオン 100g/L	とうもろこし 飼料用 とうもろこし	実・継	一年生広葉雑草	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	150～200mL ＜水量 100L＞	全土壌 (砂土を除く)		1) 北海道を除く 2) スパルリコに効果が劣る場合がある。 3) 茎葉処理では一過性の白化症状を生じる場合がある。	・ 茎葉処理でのイネ科雑草に対する効果の検討 ・ 北海道での効果、葉害の確認
			茎葉		とうもろこし2～4葉期 (広葉雑草3葉期まで)	100～150mL ＜水量 100L＞				

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
20. YF-65L 液剤 ジクワットジプロ ト 7% バウコートジクロ ト 5%	大豆	実・ 継	一年生雑 草全般	茎葉	播種後出芽 前 雑草生 育期 (草丈 20cm以下)	600～ 1000mL <水量 100L>	全土壌		1) 北海道を除く 2) 大豆の発芽開始後 は、薬剤が直接触 れると薬害が発生 することがあるの で注意する。	
				茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈30cm 以下)				1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。	・効果、薬害の 年次変動の確 認
	菜豆	継								・効果、薬害の 再確認
	さとう きび (春植)	継								・効果、薬害の 再確認
	さとう きび (夏植)	継								・効果、薬害の 再確認
	さとう きび (圃場 周縁)	継								・効果、薬害の 再確認
21. ZK-122 液剤 グリホサートカリウ 塩 43%	さとう きび (圃場 周縁)	継								・効果、薬害の 再確認
22. 2, 4PA 液剤 2, 4PA 49.5%	さとう きび (株出)	実・ 継	一年生及 び多年生 広葉雑草	茎葉	雑草生育初 期	300～500 mL <水量100 ～150L>	全土壌			・効果、薬害の 年次変動の確 認
	さとう きび (春植)	実・ 継	一年生及 び多年生 広葉雑草	茎葉	雑草生育初 期	300～500 mL <水量100 ～150L>	全土壌			・効果、薬害の 年次変動の確 認

A. 除草剤 つづき

薬剤名	作物名	判定	使用基準						使用上の注意	継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 /10a	適用土壌	適用 地域		
23. レナシル・PAC 水和剤 レナシル 40% PAC 30%	てんさい (移植)	実	一年生雑 草全般	茎葉兼 土壌	移植活着 後、中耕後 (雑草発生 初期) 1～2回処理	200～300 g ＜水量50 ～100L＞	全土壌		1) レナシルに効果が劣る 場合がある。	
24. レナシル・PAC 水和剤+フェン メ'イファム乳剤 レナシル 40% PAC 30% フェンメ'イファム 13%	てんさい (移植)	実	一年生広 葉雑草	茎葉兼 土壌 (同時 処理)	移植活着後 雑草発生初 期～揃期	レナシル・PAC :150～ 200g+フェン メ'イファム: 300～500 mL＜水量 100L＞	全土壌			
25. MW-851 液剤 ビ'アラホス 18%	大豆	実 ・ 継	一年生雑 草全般	茎葉	耕起10日以前 雑草生 育期	300～500 mL ＜水量100 ～150L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 周辺作物に飛散し ないように散布す る。	・ 効果の確認
				茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈20cm 以下)				1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。	
	菜豆	実 ・ 継	一年生雑 草全般	茎葉 (畦間)	生育期 雑 草生育期 (草丈20cm 以下)	300～500 mL ＜水量100 ～150L＞	全土壌		1) 北海道を除く 2) 作物に飛散しない ように散布する。	
26. BAS-3510 (Na)L 液剤 ベンタゾン 40%	大豆	実 ・ 継	一年生広 葉雑草	茎葉	大豆2～6葉 期...広葉雑 草生育初期 (6葉期ま で)...	100～150 mL ＜水量 100L＞	全土壌		1) 気象条件によつて は、過性の薬害を 生じることがある。 2) 品種によっては薬 害により減収する 場合があるので、 使用にあたっては 使用前に公的指導 機関の指導を受け ること... 3) アザミ科、ヒユ科、トウダイ グサ科等には効果が 劣る。 4) 体系処理：イネ科 雑草に有効な除草 剤を使用する。	・ 北海道におけ る効果、薬害 の検討
27. KPP-314 (L)7077'ル剤 ベンタゾン 2.9%	食用ビ エ	実	一年生雑 草全般	湛水土 壌	植代後～移 植4日前、 移植直後～ 移植5日後	500mL ＜原液散 布＞	全土壌 (砂土を 除く)			

B. 生育調節剤

薬 剤 名	作物名	試験目的	判 定	実用化に対する 処理方法	継続の内容
1.F-8426E0 EO剤 カフエントラゾニル 60g/L	ばれいしょ	[作用性・適用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉繁茂期処理）	継		・効果、葉害の再確認
		[作用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉黄変期処理）	—		・適用性試験にて検討
2.NGR-303 粒剤 イソプロチオン 12%	かんしょ	[作用性・適用性] 苗の活着促進、生育促進、品 質向上	継		・効果の確認
3.NH-611 乳剤 ピラフメニル 0.4%	大豆	[作用性・適用性] 落葉、枯凋促進効果	継		・効果の確認
	ばれいしょ	[適用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉繁茂期2回処 理）	実・継	[茎葉枯凋促進効果] ・開花始30日以降（茎葉繁 茂期） 450mL/10a→250～450mL/ 10a <水量100L/10a> 茎葉処理（2回処理） 北海道	・萌芽性の再確認
		[適用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉黄変期2回処 理）	実・継	従来通り [茎葉枯凋促進効果] ・茎葉黄変期 250～450mL/10a <水量100L/10a> 茎葉処理 北海道	・2回処理の効果、葉 害の再確認
4.S-482 顆粒水和剤 フルミタジン 50%	ばれいしょ	[作用性・適用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉繁茂期処理）	継		・効果、葉害の再確認
		[適用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉黄変期処理）	実・継	[茎葉枯凋促進効果] ・茎葉黄変始～黄変期 10～20g/10a <水量100L/10a> 茎葉処理 北海道	・萌芽性の再確認
5.SYJ-147 液剤 エレントピリジリウム プロミド 10%	ばれいしょ	[作用性・適用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉繁茂期処理）	継		・効果、葉害の再確認
		[作用性・適用性] 茎葉枯凋促進効果および品質 への影響（茎葉黄変期処理）	実・継	[茎葉枯凋促進効果] ・茎葉黄変始～黄変期 450～600mL/10a <水量100L/10a> 茎葉処理 東北以南	・北海道での効果、葉 害の再確認 ・東北以南での効果、 葉害の年次変動の確 認